

Course number	U-LAS70 10001 SJ50				
Course title (and course title in English)	ILASセミナー : 社会学 I ILAS Seminar : Sociology I	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Human and Environmental Studies Professor, Haruka Shibata		
Group	Seminars in Liberal Arts and Sciences	Number of credits	2	Number of weekly time blocks	1
Class style	seminar (Face-to-face course)	Year/semesters	2024・First semester	Quota (Freshman)	5 (5)
Target year	Mainly 1st year students	Eligible students	For all majors	Days and periods	Tue.4
Classroom	3B, Yoshida-South Campus Academic Center Bldg. North Wing			Language of instruction	Japanese
Keyword	幸せ / 生き方 / 親密性 (友人関係・恋愛・結婚・家族)				

(Students of Faculty of Integrated Human Studies cannot take this course as liberal arts and general education course. Please register the course with your department.)

[Overview and purpose of the course]

「幸せ」「生き方」「親密性」といった担当教員の研究テーマを参考にしながら、受講者各人が、現代のさまざまな社会現象や、自分自身の人生・生活上の問題について、自らの関心に即して、社会学などの先行研究(関心に最も近い査読論文1本以上)を参照・批判しつつ、独自の発想を加えた考察を行い、発表をする。
さらに、その発表内容について、出席者全体で発展的議論を行い、互いの考察を深め合う。
またその際、担当教員は、社会学の思考法を活かした発言をすることで、社会学の思考法を参与的かつ実践的に伝授する。

[Course objectives]

社会学の思考法を用いて、現代のさまざまな社会現象や自分自身の人生・生活の背景にある「しくみ」(社会構造とコミュニケーションの相互作用)を、初歩的な水準で分析・説明・議論できるようになる。

[Course schedule and contents]

基本的に以下の計画に従って授業を進める。ただし、受講者の状況などに応じて、内容を変更する可能性がある。

- 第1回 ガイダンス(発表の仕方、先行研究の検索方法)、受講者各人の発表日程の決定。
- 第2~4回 担当教員が見本発表を行う。そのあと、出席者全体で発展的議論を行う。さらに空いた時間で、先行研究の選び方の相談会を行う。
- 第5回~第12回 毎回1名が発表する。発表では、「社会現象や人生・生活についての問い」、「その問いに最も近い先行研究(査読論文1本以上)の整理と未解決点」、「その未解決点に関するできるだけ客観的な独自考察」、「問いへの暫定的な答え」、「考察の限界と今後の課題」を、レジュメに沿って口頭発表する。そのあと、出席者全体で発展的議論を行う。
- 第13回 予備日
- 第14回 まとめの討論
- 第15回 フィードバック(詳細は授業中に説明)

Continue to ILASセミナー : 社会学I(2)

ILASセミナー : 社会学 I (2)

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

平常点 (発表内容50点 + 討論参加50点 = 100点満点) によって評価する。

[Textbooks]

Not used

[References, etc.]

(References, etc.)

Introduced during class

(Related URL)

<https://sites.google.com/site/harukashibata/profile>(教員紹介のページ)

[Study outside of class (preparation and review)]

予習は、今後の自分の発表のための準備を入念に行うこと。

復習は、毎回の授業内容をふりかえり、関連情報を調べること。不明点については、口頭かメールで教員に質問すること。

毎回の予習・復習の時間配分は、予習120分 (平均)、復習120分を目安とする。

[Other information (office hours, etc.)]

履修人数を発表スケジュールに適した人数に制限する。

また、「感染による履修上の配慮」が必要となった場合には、急遽、Zoomを用いたハイブリッド形式に切り替え、対面参加者もZoom上で発言をしてもらう可能性があるため、Zoomにアクセスできる端末 (ノートPC等) とイヤホン (できればイヤホンマイク) を毎回持参すること。